

Science Report of Kushiro City Museum

釧路市立博物館報

NO.412



2013.9

よみがえれ春採湖！

本年4月の人事異動で博物館勤務となり、8年ぶりに春採湖と再会することができました。今、湖で何が起きているのでしょうか。期待と不安を抱きながら、この職に就きました。

まず、私と春採湖との仕事上の関わりは、平成3年度に新設された公園緑政課自然保護係(当時)に配属となったことから始まります。私は春採湖水質浄化対策の担当となり、春採湖環境保全計画の策定にとりかかりました。

当時の春採湖は、周辺地域の宅地化などの影響を受けて、アオコが大発生するなど水質汚濁が著しく進行し、周辺の市民から悪臭の苦情が多数寄せられ、時には酸欠により大量の魚が斃死する水質事故が発生したほどです。配属して数か月後にも「事故」が起こり、私と博物館の学芸員が共同で、湖岸に打ち寄せられた多数のフナ(フナ)の死体の回収に当たったことを、硫化水素を含んだ腐敗臭とともに思い出します。折しも、平成3年度の全国湖沼水質ランクにおいて、春採湖はCOD(化学的酸素要求量)16mg/Lとなり、日本で一番汚い湖という不名誉な称号をいただきました。

一般的に、湖沼の水質汚濁の主な要因は、流入負荷(生活排水などの流入)、内部生産(プランクトンの増殖)、底質回帰(湖底のヘドロからの溶出)ですが、春採湖はこれに加えて、上層水(淡水層)と下層水(停滞塩水層)の二層構造という特異性があります。下層水は、潮位が高い時に湖に逆流した海水が比重の関係で湖底に停滞したもので、酸素が失われて硫化水素を多量に含むな

ど、非常に汚濁した状態になっています。

釧路市では、北海道教育大学釧路校の先生などで組織する春採湖調査会の提言を踏まえるとともに、清流ルネッサンス21の指定も受けて、公共下水道の整備、湖底の浚渫、ヨシによる流入水の浄化の対策を計画的に進めてきました。特に、海水の逆流を抑制するために設置した潮止堰の効果により、淡水層の厚みが増し、徐々に水質は改善してきており、ここ数年ではCODは7~9mg/Lで推移しています。

しかしながら、近年、大繁殖したウチダザリガニの食害によってヒブナが産卵するマツモなどの水草が激減し、これに伴って湖で繁殖する水鳥も減少するなど、春採湖の生態系に大きな変化を来しています。平成18年度から市では、市民参加等によるウチダザリガニの捕獲事業に力を注いでいます。この結果、湖の一部ではマツモなどが回復傾向にあります。これからも息の長い取り組みが求められるものと思われます。

博物館では、探鳥会や草花ウォッチングなどの自然観察会を通じて、事あるごとに春採湖に対する理解を深めてもらっております。そのような意味からも、かつての豊かな生態系が回復することを切に望んでいます。表題は、計画策定時に用いたスローガンですが、今一度叫びたいと思います、「よみがえれ春採湖！」と。

釧路市立博物館

館長 木村 俊宏

9月号目次

よみがえれ春採湖！	木村 俊宏	2
花矢	松田 猛	3
繰込について	棚澤 和男	7
チャランケチャシ	野本 和宏・貞國 利夫	11
博物館ニュース		12



国後島中南部オホーツク海側の屏風岩

(表紙写真) 企画展「国後島の植物と自然」展示写真より。国後島中部太平洋側の街、古釜布の北西に広がる古釜布湿原は、釧路湿原と同じく海退後に成立した湿原で、湿原中心部にはミスゴケ湿原が発達しています。湿原北東部では、アカエゾマツと池塘が織りなす独特の風景が広がっています。(加藤 ゆき恵)

釧路市立博物館報 No.412 2013年9月号 2013年9月30日発行

発行 釧路市立博物館 〒085-0822 釧路市春湖台1-7

☎ 0154-41-5809(博物館)・43-0739(埋蔵文化財調査センター)/ FAX 0154-42-6000

釧路市立博物館Web <http://www.city.kushiro.lg.jp/museum/>

museum@city.kushiro.lg.jp(博物館) maibun@city.kushiro.lg.jp(埋蔵文化財調査センター)

発行責任者 木村 俊宏 編集 石川 孝織・土屋 慶丞 印刷 (株)藤プリント ISSN 2187-9591